３年道徳通信 第 33 号

第 33 回『嵐の中で』

父親の漁船で働く勇太と幼なじみの明夫が、一度は疎遠になった友情を取り戻していく物語から「信頼し合える友達とはどのような関係か」を考えました。
生活が荒れている明夫のことが心配な勇太ですが、面と向かって明夫に何も言えません。そんな勇太に父は「明夫のことを本当に思っているなら、遠慮せずに思ったことを言ってやれ」と言います。そんな勇太が明夫と漁に出て、嵐に遭い、明夫の表面しか見ていなかったことに気づきます。「おまえが羨ましかった」という明夫の言葉に２人はがっちりと手を握り合うのでした。

みんなの意見

「それでもがきの頃からの付き合いなのか」勇太の胸に刺さったのはなぜ？

- 信頼しているからこそ言わなくてはいけないことがあるから。
- 明夫のことを考えて行動できていなかったから。
- 子供の頃から仲が良かったのに離れてしまっていることが悲しかったから。

明夫と顔を見合わせて、がっちりと手を握り合ったときの勇太の思いは?

- ここに戻ってきてくれてうれしかった。また、一緒に過ごせてうれしい。
- これから一緒に頑張ろう。
- 最高にうれしい。
- 船仲間として一緒に頑張ろう。
- 「これからもよろしく。」と思った。仲直り。
- 明夫の大切さを改めて感じることができた。明夫を信頼していこうという強い思い。

信頼し合える友達とはどのような関係の者どうしのことだと思いますか？

- 一方的じゃなくお互い様。くだらないことも付き合える。自分を偽らなくてもいい関係。
- 主人公が声をあげて思いっきり言ったことで、２人の関係が変わったのだと思います。
- 本音で付き合える仲になれるよう、自分もできることをしていきたいと思いました。
- お互いを思って注意したり、何かあったときに助けあうのが本当の友達だと思った。
- 自分の気持ちを素直に伝えることのできる存在はどても大切だと思いました。
- 話を聞くだけじゃなく、自分の意見も相手に言って、言われた相手もそれを受けとめることができる。それができて初めて、信頼し合える関係って呼べるのかなって思った。

信頼し合える友達とは、どのような関係の者どうしのことだろう。